

気づいたことを、気軽に、喜んでさっと処理する、気づくと同時に行なうことは、成功の秘訣です。これは倫理法人会会友の実践による幾百の体験が証明しています。殊に、苦難の渦中にある人には、幸福な生活を取り戻す鍵ともなりえます。

ある営業マンが、幾ページにもわたる商品説明用の資料作りに日々追われていました。筆がのらず、残業が深夜に及ぶことさえありました。

そんなある日、早朝時間の活用が奏功するという情報を耳にし、今の自分に必要なのはこれだ」と直感。早速、夜はつとめて早めに就寝するようにし、起床時間を早めて、一時間早く出勤するようにしました。すると、考えがよくまとまり、筆も進みます。こうして仕上がった資料によって、その後の商談の成約率は格段に上がったのです。

この事例のように、気づきをすみやかに実行に移すことが、状況を好転させ、生活を向上させるのです。

さて、気づきと言っても様々な種類があります。

例えば、玄関の靴が脱ぎっぱなしで乱れている、床が汚れている等の状況を目にした人の多くは、「これは改めなければならぬ」と気づきます。そして、場をより美しくする行動に着手するでしょう。こうした、状態を目にしたことによる気づきは、アクションを起こし易い気づきだと言えるのではないのでしょうか。

次に、自転車で駅へ向かう通勤途中、定



気づきは人生を豊かにする道標

期券の置き忘れやガス栓の閉め忘れに気づいて引き返すといった、その時々状況に関連する気づきがあります。これも捨てておいては支障を来すので、生活に生かすべき大事な要素と言えましょう。

さらに、今行なっていることとはおおよそ関わりのない事柄に気づく時があります。

ある営業マンが電車で帰宅している最中に、「取引先に連絡したほうが良いような気がする」と思い立ち、すぐに電話しました。すると先方は「連絡がなければ他社との商談に移行しようと考えていた」と語り、大事な取引先を失わずに済んだ、という体験事例もあるのです。

こうした気づきはすぐ着手できない場合が多いので、後で対処することになりがちです。気づきを忘れないために胸ポケットにメモを忍ばせたり、寝床に筆記用具を用意する人もいます。気づきを粗末にせず、生活に生かすための工夫です。

時には「面倒だな……」と、気づきをうやむやにすることはしないでしょか。せっかく目が覚めてもすぐに起き上がらない、使っていた道具を仕舞おうと思いついたのに後回しにしてしまうような場面です。こうした、気づきを生かす、生かさないの差は、すぐに明白に現われることは少ないかもしれません。しかし、豊かな人生を掴んだ人は、必ず気づきを生かしています。

気づいた時、実行するかしないかは、自分次第。億劫に感じて、さっさと行なってしまうえば、心も清々しいものです。